

クリスマスの出費が… プレゼントはゲーム？

子どもとゲーム—その②

FFJ評議員

堀井 卓たくし

僕が子どもの頃はゲームと言えば、ビー玉、メロンコ、囲碁、将棋、トランプ、ボードゲーム、外では野球や缶けり、竹馬、縄跳び「懐かしい」中学生の頃、友達の家でブロック崩しのゲーム機に驚いたことがありましたが、テレビゲームで遊ぶことはまったくありませんでした。しかし現在、おもちゃ屋さんにはテレビゲーム関連の商品で埋め尽くされています。おもちゃと言えばテレビゲーム、とまでは言わないまでも、テレビゲームは現代の子どもたちにとっては当たり前のおもちゃですね。

一九八三年、任天堂がファミコンを発売して以来、ゲームの世界はものすごい勢いで成長しています。パソコン、携帯、スマホ、時計や電子辞書にまでありとあらゆる電子機器にゲームが入っていますね。そして昨今、インターネットを使ったゲームやスマホのアプリがゲーム業界の構図を変えてきています。最近では、Wiiが生産中止になったように据え置き型から携帯型に変わってきています。

以前、長男から「DS、みんな持っているから買って」とか長女から「Wiiなら家族みんなで遊べるよ。だから買って」と言われていたのですが、結局今まで買っていません。最近はずもたちもあきらめたようです（笑）。

僕が子どもにテレビゲーム機を買わない理由は、

「テレビゲームより外でスポーツを」「思考ゲームは、囲碁や将棋、トランプなどを人間相手」「殺人ゲームはもとよりモンスター殺しなど相手を殺すゲームや暴力ゲームは、嫌いだ」「大切な時間をテレビゲームに使うのはもったいない」などなど、かなり時代錯誤の意見ですが…。

現在、中学生までの子どものゲーム機（テレビゲーム、携帯、スマホなど）の保有率を調べてみると、男子99%・女子97%だそうです。愕然。長男が以前「みんな持っている」と言ったことは本当だったようです。平均ゲーム時間は1日1時間程度。ソフトも多種多様。Wiiのように家族や友達で楽しめ、体を動かすソフト、学習支援ソフトもあり学力アップに有効なものもありますが、僕はやはり買う気にはなれません。30年前の話ですが、ファミコンが出て数年後、親戚からファミコンとドラクエのセットが我が家に回ってきたことがありました。会社勤めを始めた頃でしたが、テレビにつなげて始めてみると…これが止められない。結局何日も徹夜状態で会社ではとうとうしながら仕事、家に帰るとファミコンの前に…。何とかゴールし、ドラクエの呪縛から解放された苦い経験があります。社会人の大人でも（僕だけかもしれないが）はまってしまい、時間のコントロールができなくなってしまう、ゲームにはそんな力があります。

テレビゲームの子どもへの影響

テレビゲームが子どもに与える影響については、

文科科学省、厚生省、民間でも調査結果があるのですが、一概にテレビゲームが「善か悪か」白黒はっきりつけるのは難しいと思います。殺人ゲームや暴力ゲームなどと犯罪の因果関係や、長時間の利用による視力、運動能力、肥満、寝不足、学力の低下などマイナス要因もあります。特に私が注目したのは、「社会的不適応」。いわゆる引きこもりになってゲームばかりしていたり、暴力的になってしまふ点です。先日、男子中学生にゲームについて聞いてみました。「モンハン*やっていますよ。引きこもってモンハンしてる子もいます」（*モンスターハンター）「グラセフ*もすごいですよ！」これは車を盗んで街中を走り回るなど、犯罪・殺人を中心にしたアクションゲーム。性的な描写などもあり、18才以下禁止になっているようですが、中高生でも遊んでいるようです。（*グランド・セフト・オートII車両窃盗）

一方、テレビゲームのメリットとして僕が考えられるものを列挙してみます。気分転換暇つぶし、頭の体操、動体視力の訓練、機械に慣れる、友達との付き合い。数年前、公園で見かけた風景ですが、数人の男の子が日陰に座ってDSに熱中していました。通信機能で対戦したようです。確かにDSがなければ友達と遊ぶこともできなくなっていたようです。

ゲーム機、スマホを買う場合、事前に親子でルールを決める

テレビゲームを親が一方的に禁止することにより、隠れてゲームをしたり、仲間外れになったりどこかで歪みが出てしまうかもしれません。実際、我が家でも友達からゲーム機を借りてきて隠れてゲームをしていることが発覚したこともありまし